



# バグダッドLO日々業務報告(1月18日1900)



区 分	内 容
1 警戒態勢等	(1) サマーワに直接影響を及ぼす脅威情報 (2) イラク全域に係る脅威レベル サマーワ及びバスラは、バグダッド及びモスルは、ラマディは
2 特記事項	特になし
3 本日の業務	(1) 情報収集及び連絡調整 (2) 5次要員に対する申し送り
4 明日の予定	(1) 情報収集及び連絡調整 (2) 5次要員に対する申し送り
5 その他(備考)	な し

## バグダッド 日 誌 (1月18日)

- MNC-I司令官 送別会
- 交代に伴い帰国を目前に控えたの送別会が昨夕実施された。MNC-I副司令官及び各国LOの代表者が出席した。日本は私と後任のが出席した。
  - 多国籍風寄せ書きをから送られ、参加者全員と記念写真を撮った。各国LOが「司令官と直接会う機会は当然のことながら非常に少ない。と言うよりめったにない。
  - 私は、隊長から司令官への記念品を贈呈するため、たまたま前日にお会いしていた。司令官が会場に入場され最初に「(とりあえず)写真でも撮るか!」と私を抱きしめた。「エッ...!」と驚くとともに、(気合い入れられるかな...?)とっていると、すかさず「胸に!」と続いて「頭突き」が来た。頭をくっつけ合って司令官に抱きしめられたまま写真を撮った。周囲の雰囲気はこれで一変した。司令官の「つかみはOK!」という感じである。
  - 「ここにいる各国LOとその派遣部隊のお陰で、私は任務を全うできた。テロとの戦いはまだまだ続く。米国はもとより『日本』やヨーロッパ中央アジアの諸国にとって、中東、イラクの安定は、世界の平和と安定と繁栄に不可欠である。」(要旨)と訓示された。日本の国名を出して話をされた事が印象的であった。
- 送別会(番外編)
- 会の中で、カザフスタンLOと私が話をしていると、着任間もない英国少佐が話しかけてきた。それぞれの国の派遣部隊規模、活動地域を聞いてきた。私が答え、カザフが答えた。(名、バグダッドに名という小規模の部隊を派遣している。)英国人少佐は(そんなに少ないの?)という表情をした。カザフは特に英米からそんな風に言われるのが、気に入らない。(凡例「英」:英国少佐、「カ」:カザフスタンLO、「日」:日本人LO)
  - 日:「カザフスタンがなぜ、〇名しかバグダッドにいないか知ってるか?」
  - 英:「知らない」
  - 日:「日本人はここに5人いるけど、彼は一人でも俺達5人分と同じくらい強いんだよ!」
  - カ:「(私にウインクしながら)「そうでもないけど...」
  - 英:「コートにいるカザフの部隊も強いから、少なくともいいわけだ!」
  - 日:「そうそう。彼らは強いんだよ。」
  - 英:「だから米軍は、あんなにたくさん必要なんだ!」(口に人差し指を当てて「シーツ!」というポーズ)
  - 一同大笑い。英米関係も色々複雑のようだ。
- (国井)